

令和2年度第2回 青森県地方独立行政法人評価委員会 議事録

日時：令和2年8月27日（木）
10時00分～11時20分
場所：青森県庁議会棟6階
第1委員会室

（司会）

ただ今から、令和2年度第2回青森県地方独立行政法人評価委員会を開会いたします。

本日は、全委員に御出席いただいておりますので、会議が成立いたしますことを御報告申し上げます。

本日は公立大学法人青森県保健大学の

「令和元年度業務実績評価」と

「第二期中期目標期間終了時実績評価」

を審議していただきます。

本日の資料ですけれども、お手元の次第、委員の名簿、出席者名簿、席図

そして、審議資料としまして、資料1と資料2

そして、参考資料として、参考資料1から参考資料5までとなっております。

過不足はございませんでしょうか。

それでは、ここからの議事につきましては、伊藤委員長にお願いいたします。

よろしく申し上げます。

（伊藤委員長）

皆さん、おはようございます。

今日は、今、御紹介がありましたように、資料1と資料2の案につきまして、皆さんに御議論いただいた後、確定するという作業をさせていただきたいと思っております。

まずは、約ひと月前になるでしょうか、ヒアリングを長時間にわたり行わせていただきまして、保健大学の皆様には、短い時間の中、修正を十分に行っていただきまして大変ありがとうございました。感謝いたします。

では、資料1から始めたいと思います。

まず、1ページをおめくりいただきますと目次があります。

次の1ページをおめくりいただきますと、下が1ページとなっているところですが、まず評価の基本的な考え方ということで、全体として、それほど長いものではありませんので、凡そ読みながら進めさせていただきたいと思っております。

評価の実施に当たっては、青森県立保健大学の年度計画に定めた事項ごとにその実績等を明らかにした業務実績報告書ですね。参考資料の1になります。及び法人への徴取等に基づき調査・分析を行い、その結果を踏まえて項目別評価及び全体評価を行う。ということで、項目別評価は、そこに書かれている（1）から（7）になります。評価は、そこにも書かれております5段階評価ということになります。

2番目、全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、令和元年度における業務実績の全体について記述式により総合的に評価する。また、必要がある場合は業務運営の改善その他の勧告をする。となっております。

次のページが、今日お集まりの委員の皆様になります。

ということで、まず、項目別評価を1つ1つ行っていくということで、下のページ、5ページになります。

項目別評価の（1）教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）ということです。

評価としましては、4、「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」というふうに評価をさせていただきました。

評価の理由

年度計画の記載67項目中7項目が「年度計画を上回って実施している」、58項目が「年度計画を十分に実施している」と認められたが、大学院生の研究発表の促進に係る2項目（博士前期課程及び博士後期課程の各1項目）について、一人当たりの査読のある学術雑誌への投稿件数が目標に届かなかったことから、「年度計画を十分には実施していない」と認められた。

「年度計画を十分には実施していない」とされた項目はあったものの、下記の状況等を総合的に勘案し、「4 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」とした。

特に評価する事項

各学科のきめ細かな学生指導はじめ、人材育成とキャリア支援の充実による国家試験合格率の高さと就職率100%を高く評価する。

高大連携事業や、幅広い学生募集対策の実施により、高い入学志願者倍率を維持していることを評価する。

その他の意見として、

看護学科における地域定着枠については、地域貢献度が高く、看護の質向上にもつながるものと期待されることから、実施に向けた基盤整備をしっかりと進めていただきたい。

大学院課程においては、前期・後期課程ごとの研究指導方針を明確化した上で、研究発表の指導教育を促進することを期待する。

下に参考の数字が書かれております。

委員の皆様、このように評価書を作りましたけども、いかがでしょうか。

(委員)

「異議なし」の声あり

(伊藤委員長)

よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

では、次のページをおめくりください。

(2) 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画(研究)

評価として、4、「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」としました。

評価の理由です。

年度計画の記載8項目のすべてが「年度計画を十分に実施している」と認められたことに加え、下記の状況等を総合的に勘案し、「4 地域計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」とした。

特に評価する事項

ヘルスリテラシーの向上をはじめとする地域課題の解決に向けた研究課題について、学内研究費助成制度を活用した取組が推進されている。また、研究成果の県民への公開などに継続的に取り組んでいる。

その他の意見として、

今後も継続して研究活動を強化することによって、科研費をはじめとする外部資金への応募件数及び採択率の向上を期待する。としております。

委員の皆様、いかがでしょうか。

(委員)

「異議なし」の声あり

(伊藤委員長)

では、次に進みます。

(3) 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画(地域貢献)です。

評価は4です。「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」

評価の理由

年度計画の記載11項目中2項目が「年度計画を上回って実施している」と認められ、9項目が「年度計画を十分に実施している」と認められたことに加え、下記の状況等を総合的に勘案し、「4 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」とした。

特に評価する事項

学生参画型の地域活動である「おかず味噌汁健やか力向上委員会」の活動が農林水産大臣

賞を受賞したことやCOC+事業の「女子学生の県内就職定着に向けた教育プログラム」開発主査校として成果をあげたことを高く評価する。

今後の課題とする事項として

同窓会ネットワーク強化に向けた取組をさらに充実させ、将来の人材還流につながる取組に期待する。

その他の意見として、

県内就職率のさらなる向上に向け、行政や県内事業者等との連携強化やUターン促進などに今後とも積極的に取り組んでいただきたい。としております。

下に県内就職率の数字を書かせていただいております。

いかがでしょうか。

特に御意見など、よろしいですか。

では、次に進みます。

(4) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画

評価4「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」

評価の理由

年度計画記載11項目中9項目が「年度計画を十分に実施している」と認められたが、内部監査の実施及び問題点の改善と専門的職員の育成に係る2つの項目については、新型コロナウイルスの影響等のため一部未実施となったことから、「年度計画を十分には実施していない」と認められた。

「年度計画を十分には実施していない」とされた2つの項目については、開催できないやむを得ない理由があったこと及び翌年度に実施する旨を確認したこと等を総合的に勘案し、「4 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」とした。

特に評価する事項として、

大学職員への職場内・外研修のほか、産業能率大学の通信講座を自己研修助成対象とするなど、計画的に職員の専門性と資質の向上に取り組んでいる。

その他の意見として、

新型コロナウイルスの影響等により実施できなかった内部監査等については、その実施方法等を工夫するなどして翌年度に確実に実施していただきたい。としております。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、(5) 財務内容の改善に関する目標を達成するための計画

評価は4「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」としてあります。

評価の理由として、

年度計画の記載11項目の全てが「年度計画を十分に実施している」と認められたこと等、総合的に勘案し、「4 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」とした。

特に評価する事項

運営経費及び光熱水使用量の抑制についての目標を達成するなど、職員のコスト意識の

向上に取り組んでいる。

その他の意見として、

外部資金採択件数に関して目標に届かない面もあるが、民間との共同研究を支援等のサポート体制をより一層強化するなどして採択件数のみならず採択金額の向上を目指した取組を期待する。

職員宿舎を含めた大学資産の有効活用について、その具体策を迅速に検討、実施していただきたい。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、次のページです。

(6) 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画

評価4「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」

評価の理由

年度計画の記載6項目の全てが「年度計画を十分に実施している」と認められたこと等を総合的に勘案し、「4 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」とした。

よろしいでしょうか。

では、最後に(7)になります。

その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画

評価4「中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」

評価の理由

年度計画の記載、8項目中7項目が「年度計画を十分に実施している」と認められたが、人権に関する委員会の開催に係る項目について、新型コロナウイルス感染予防のため開催を見送ったことから「年度計画を十分には実施していない」と認められた。

「年度計画を十分には実施していない」とされた項目はあったものの、当該項目については、開催できないやむを得ない理由があったこと及び翌年度に実施する旨を確認したこと等を総合的に勘案し、「4 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」としました。

委員の皆様、いかがでしょうか。

では、少し前に戻っていただきまして、これを、今の7点の項目別評価を受けまして全体評価になります。

下のページで3ページになります。

1 全体評価

(1) 総評

青森県立保健大学は、本県の保健、医療及び福祉に係る諸課題の解決に向けて取り組むことを理念として、人間性豊かでグローバルな視点を持ち、地域特性に対応できる能力を兼ね備えた保健、医療及び福祉の中核的役割を果たすことができる人材を育成すること、並びに保健、医療及び福祉の教育研究拠点として培った人的資源や教育研究成果を広く地域社会

に還元するとともに、産学官民の連携した取組による地域貢献活動を展開し、県民の健康と生活の向上に寄与することを使命としている。

第二期中期目標・計画期間（平成26年度から令和元年度まで）の最終年度となる令和元年度は、各学科のきめ細かな学生指導をはじめ、人材育成とキャリア支援の充実により、全国的にも高水準である国家試験合格率と就職率100%を達成しており、高い成果を上げたと認められる。

年度計画については、中期計画の達成に向けて、ほぼ計画どおりに実施したと評価できる。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により実施を見送った取組等については、その実施方法や実施時期等を工夫するなどして確実に実施するよう努められたい。

次のページが、(2)業務の実施状況として、先ほど、確認させていただきました7点について、全部「4」というところにマルが付いております。

(3)です。

組織、業務運営等に係る改善事項等。「特に改善勧告を要する事項はない」というふうに全体評価を書かせていただいておりますが、委員の皆様、何かコメントなどがございませうでしょうか。よろしいでしょうか。

保健大学さんから、上泉理事長、いかがですか。

よろしいですか。

(保健大学・上泉理事長)

はい。

(伊藤委員長)

では、今、御審議いただきました資料1の案につきましては、字句の修正、細かな字句の修正ですね。全体の内容に関わるものではなく、これから、これが公表事項になりますので、議会にかかったり、勿論、まず知事に御報告した後、議会にかかったりとか、いろいろ手続きを踏んでいく中で内容に関わらないような細かな字句の修正につきましては、私に御一任いただきたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

どうもありがとうございます。

では、これで令和元年度の業務実績評価を資料1のとおり決定したいと思います。どうもありがとうございました。

では、続きまして資料2を御覧ください。

今度は、第二期中期目標期間の業務実績評価についてお諮りいたします。

1ページおめくりいただきますと、まず目次がございます。

次が、先ほどと同じになります、評価の基本的な考え方ということになります。これも、項目別評価の結果を踏まえて全体評価という流れで、これから進めていきたいと思っております。

では、下のページで5ページをお開きください。

項目別評価の(1)教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画(教育)ということで、評価4「中期計画を達成している」としました。

中期計画の記載24項目中5項目が「中期目標を上回って達成している」、18項目が「中期目標を十分に達成している」と認められたほか、大学院生の研究推進(博士前期課程)における、在学中及び終了1年以内での学術雑誌への投稿件数について目標値を達成できなかったことから1項目が「中期目標を十分には達成していない」と認められた。

「中期目標を十分には達成していない」とされた項目はあったものの、下記の状況等を総合的に勘案し、「4 中期目標を達成している」とした。

あれ?これ「中期目標」を達成している、「中期計画」を達成している、どちらですか?

(事務局)

「中期目標」を達成している、になります。

申し訳ございません。

(伊藤委員長)

じゃ、上の方の評価のところの「計画」を「目標」に直してもらえますか。

特に評価する事項として3点挙げさせていただきました。

学生の育成に関する目標において、1学部4学科の特性を活かし、多職種連携を見据えた健康科学部共通教育を展開している。また、看護学科においてシミュレーション教育や卒業時移行プログラム、栄養学科において総合演習における実践的な取組といった学生の将来を見据えた教育プログラムを設定するなど、高い実践力を持つ人材の育成につながる取組を実施している。

教育内容等に関する目標において、全学的な議論のもとにディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)とカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)を定め、新カリキュラムを前倒しで策定している。

学生への支援に関する目標において、学生へのキャリア支援の充実については、個別指導も含めた国家試験対策等により、各種国家試験の合格率は全国平均以上の高い水準を維持している。また、就職ガイダンスの実施等により就職率についても98%以上の高い水準を維持しており、特に令和元年度は、就職率100%を達成した。

ということで、その下にこの6年間の数字の推移を書かせていただいております。

次のページ、6ページの上に、その他の意見として、1点入れさせていただきました。

学生の育成に関する目標において、大学院生(博士前期課程)の学術雑誌への投稿件数について目標を下回っていると。前期・後期課程ごとの研究指導方針を明確化した上で、研究発表の指導教育を促進することを期待するというので、やはり数字を見ても、なかなか届いていないということが分かると思いますが、これは、前回のヒアリングでも、前期課程の役割、後期課程の役割ということを、やはり明確にして、これから人材育成をしていくとい

うことは大切なのではないかとということで、皆様にも、そこで議論があったところだと思います。

委員の皆様、項目別評価の1点目ですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、(2)に移ります。

教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）

評価4「中期目標を達成している」

中期計画の記載4項目の全てが「中期目標を十分に達成している」と認められたことに加え、下記の状況等を総合的に勘案し、「4 中期目標を達成している」とした。

特に評価する事項として、

研究内容に関する目標において、学内研究費助成制度等を活用して既存プロジェクトを継続的に支援した上で、新しく重点課題研究（プロジェクト研究）やヘルスリテラシー促進研究の制度を設け、地域課題の解決に寄与する研究を推進している。

研究実施体制に関する目標において、外部資金獲得に資する学内の研究費助成制度を改正するなどインセンティブを充実させたほか、研究倫理教育、コンプライアンス教育及び研究活動上の内部監査等を組織的に実施している、といたしました。

いかがでしょうか。

では、次のページ、(3)になります。

教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）

評価4「中期目標を達成している」ということで、

中期計画の記載6項目中5項目が「中期目標を十分に達成している」と認められたほか、県内就職率の目標値を達成できなかったことから1項目が「中期目標を十分には達成していない」と認められた。

「中期目標を十分には達成していない」とされた項目はあったものの、下記の状況等を総合的に勘案し、「4 中期目標を達成している」とした。

特に評価する事項

学生参加型の地域活動である「おかず味噌汁健やか力向上委員会」の活動は、平成30年度には青森市学生ビジネスアイデアコンテストでグランプリを獲得、また、令和元年度には第3回食育活動ボランティア部門（大学等の部）で農林水産大臣賞を受賞するなどその実績を積み上げている。

「生活と健康」を基本テーマに6年間で計30回の県民公開講座を開催し、延べ7,550人が受講した。そのほか、平成28年度からはヘルスリテラシー特別公開講座として「認知症サポーター養成講座」を開講するなど、県民の健康と福祉の向上、地域の発展に寄与している。

就職合同説明会の抜本的な見直しや、女子学生を対象としたキャリア支援教育プログラムの開発、卒業生をはじめとする保健医療福祉に携わる関係者へのUターン支援等県内就職・定着の促進に向けた取組を充実させているほか、地域定着枠入試の導入に向けた新たな

取組については十分に評価できる、としました。

今後の課題とする事項につきましては、

県立大学として一定程度の専門職を県内事業所に毎年度送り出すことを期待されることから、行政や県内事業所、県内他大学等との連携・情報共有の強化、同窓会ネットワークを活用したUターンの促進等、必要な対策に引き続き積極的に取り組んでいくことを期待する、としております。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

これにつきましては、2年前の見込み評価の際は、評価として3でしたが、30年度、元年度は、取組を高く評価させていただきまして、特に評価する事項を社会貢献全体として、やはり中期目標を達成しているというふうに評価をさせていただいているところです。

次のページにいきます。

(4) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画

評価4「中期目標を達成している」

中期計画の記載6項目のすべてが「中期目標を十分に達成している」と認められたことに加え、下記の状況等を総合的に勘案し、「4 中期目標を達成している」とした。

特に評価する事項

人事の適正化に関する目標において、事務職員の業績評価について、平成28年度から年2回の実施とし、勤勉手当への反映等に活用したほか、平成29年度には、業務への適正、能力活用、希望業務等に関する自己申告書を徴収して、人事異動に活用し、組織体制の適正化を図っている。

また、教員においては、教員評価を実施し、その結果に基づいて再任人事や学長賞としての個人研究費の追加配分に活用しているほか、平成29年度には教員へのアンケート結果を踏まえて教員評価表を見直し、平成30年度分の評価から適用している、としました。

いかがでしょうか。いいですか。

では、(5)に移ります。

財務内容の改善に関する目標を達成するための計画です。

評価4「中期目標を達成している」

中期計画の記載6項目のうち、5項目が「中期目標を十分に達成している」、1項目が「中期目標を十分には達成していない」と認められた。

「中期目標を十分には達成していない」とされた項目はあったものの、下記の状況等を総合的に勘案し、「4 中期目標を達成している」とした。

特に評価する事項として、

外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標において、科学研究費補助金以外の外部研究資金の獲得件数について目標を上回り、特許登録となった案件の事業化を進めている、としました。

そこに、その表が載っています。かなり高い達成ということになるかと思えます。

次のページに課題とする事項として、1点、挙げさせていただいております。

資産の運用管理の改善に関する目標において、職員宿舎の入居率向上に向けた取組を検討する必要がある、ということで、これはもう検討を進めて、既にいただいている内容だと思います。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(倉成委員)

ちょっといいですか、すみません。

(伊藤委員長)

どうぞ。

(倉成委員)

ここに来て、初めて見たもので。

外部資金の獲得件数目標7件以上というのは、科研費以外のその他の自己収入ということで、やっぱり件数的には、確かに目標をクリアしているんですけども。ちょっと、私がお願いした資料の中に金額的な推移も教えて欲しいということで出していまして、そのあれを見ますと、確か、平成26年度は2千万以上あったのかな？元年度が200万ということで、必ずしも、件数だけでは計れないようなところがあって、確かにクリアはしていますけども、とりたててここに「特に評価する」って載せない方がいいと、個人的には思いますけども。

この点、いかがでしょうか。

(伊藤委員長)

分かりました。

つまり、件数だけは確かに毎年、毎年、きちんとクリアしているけども、金額がと。

(倉成委員)

特に評価するという事項にはそれを載せるのはどうかな、と。金額的に含めて評価すればですね。

(伊藤委員長)

なかなか微妙な話で、実際そうなんです、そのとおりで、例えば、科研なんかもそうなんですけど、例えば、件数が伸びたとしても、全体として金額が、獲得金額が伸びていないということもあるとは思いますが。

(倉成委員)

なので、それは外部にいくものなので、件数だけクリアしたからということではなくて、ここに「特に」という、評価するというのが、「特に評価する」という形で出さない方がいいのではないかと、個人的には思います。

(伊藤委員長)

なるほど。

あまり内輪話を言うのもなんですが。

例えば、「特に評価する事項」というのが、例えば、今のような、皆さんにもこれから議論いただいて、やはりこのところは、特出ししないということになると、多分、評価が3になります。

(倉成委員)

そうなんですか。

(伊藤委員長)

それは、ルールとして、評価を、「中期目標を十分には達成していない」という項目があるので、つまり4以上というのは、「S」または「A」なんですね。

(倉成委員)

だから、この項目を、例えば、「A」でもいいと思うんですけども。この評価書に「特に評価する」って載せない方がいいという。

(伊藤委員長)

特に評価する事項があるので、3じゃなくて、4というのが、内情としてはそうなんです。

(倉成委員)

「特に評価する」、それは必ずここに書くような構成であるということですか。

(伊藤委員長)

それは、中期目標を十分には達成していないという項目があったというのが1つの理由になっています。

それは、委員の皆さんにも評価をつけていただく時に、「5」というのは、こういう状況を満たしたらこうですよとか。こういう状況を満たしたら「4」ですよというのは、確か一緒に添付資料としてお渡ししていると思います。

その際、これでいうと年度計画、前回のヒアリングでいうところの例えばS、A、B、C

みたいな部分。「B」というのがあると、基本「3」なんです。

だから、先ほどの、例えば、県内就職率なんかもそうなんですけども、2年前の見込み評価の時は、やはりそれが結構、ある意味、きちんと見てというか、厳しく見て、そのところがB評価だったということを重くみて、全体としては、「3」の評価だったんですね。

でも、今回、この見込み評価後の2年間の活動を見させて、改めて見させていただいて、それを超えて、非常に特に高く評価する事項というのは、地域貢献という枠組み全体で非常にあるということで、B評価があるとしても「4」という評価を付けたということになります。

もう1つは、確かに、おっしゃるとおりなんですけど、元々の計画自体が件数だけの数値目標なんです。だから、そのところは、やはり計画というものをそのまま見るというのが、評価のルールだと、1つは思います。

例えば、獲得件数が何件以上、獲得金額が何々円以上というのが、例えば、計画に載っていればおっしゃるとおりで、中身を見ればそのとおりなんですけど、計画自体は件数ということで計画が立てられているので。

(倉成委員)

計画は達成したということでもいいと思うんですけど。私の違和感は、「特に評価する」というところが、金額的な面で必ずしも十分でないのに、それを良さげに書くといったらあれですけど、それがちょっと抵抗あるという感じ。

(伊藤委員長)

だとすれば、今後の課題とする事項に入れますか？

例えば、件数は十分に達成しているが、獲得金額はあまり伸びていないとか、芳しくないもので、そこも伸ばしてもらおうように。

(倉成委員)

そこまで見せていいというか。

(伊藤委員長)

それは全然構わない。

(倉成委員)

構わないんですか。

(伊藤委員長)

それは構わないです。

評価委員会で、ここでそういうような書きぶりにしようとなれば、それはもう全然構わないです。

(倉成委員)

件数は上回っているけども、金額的な面では頑張っていたきたいみたいな形で。

(伊藤委員長)

そうです。

金額は、それほど件数の割には伸びがないというか、あまり。その表現は考えますけども。

(倉成委員)

そうしたら、それにしていなければ。皆さん、どう思われるか。

(伊藤委員長)

どうでしょうか、委員の皆さん、今、御提案として、件数は確かに、それなりに計画を満たして、特に評価する事項で述べられているけども、その裏側と言うんですかね、裏面として、獲得金額ですね。金額が、件数の割には、1つ1つが小ぶりだということなんでしょうかね。そういうところも、次からはといいますか、今後、件数だけではなくて、獲得金額についても、伸びを期待するというんでしょうか、ある一定の額を期待するというのかな。という感じですか。

どうでしょうか、委員の皆さん。

お一人お一人、折角ですから、伺っていきましょうか。

熊谷委員、いかがですか。

(熊谷専門委員)

先生がおっしゃるように、目標値自体が件数で定められているのであれば、それで仕方がないのかなと思います。

この資金につきましても、さっき先生がおっしゃいましたように、小ぶりなものが多いと。これ自体、本来、大学としては、それで十分研究が出来ていくのでやって、契約していつているものです。本来は、多ければ多いほどよいでしょうが、でもやっぱり需要と供給の問題もありまして、本当に学生さんがやれるかというのもあるんですけども。そこあたりがちょっと。

(伊藤委員長)

ちょっと、まとめて後ほど伺いましょうかね。

田中さん、いかがですか。

(田中委員)

やっぱり金額の問題じゃないような気がするんですね、私は。多い少ないとか。やっぱり達成率というか、件数という数字もそうなんですけども、内容とか、研究の内容とかが重視される問題なんじゃないかなと思うので、いいのではないかなと。

もし、どうしてもあれであれば、今後の課題とする事項に一文入ってもいいのかなとは思っています。

(伊藤委員長)

大矢さん。

(大矢委員)

そもそも計画を立てた時に件数にしちゃいけなかったのだろうなという気が、今、熊谷先生の御指摘を受けて思ったのは、これが財務内容の改善に関する目標を達成するための計画なので、財務に関することと研究に関することだけで考えると、確かに件数じゃなかったかな？という感じは受けなくはないですね。

件数を特だして書いて、確かに計画はクリアしているのだけども、実は、ということで期待することに書いたとして、それって何なの？って、特に評価できることになるの？というふうな指摘も受ける可能性はないわけではないので、勿論、この件数をクリアしたというのは、研究の面でいうと金額じゃないので、積極的にそういうことに取り組んだということも含めて評価されるべきだと思うのですが、財務に関わっていないので、ここを書かずに、他のところで特出しできるような。

例えば、光熱費がどうしたということだって、かなり努力をされていて、目標を十分に上回っているんで、そういったことを書いておいた方が安全かな？という気がしてきました。

この5番に書くことってという点でいえば。

(伊藤委員長)

それが、所々あるのですよね。

それが、他の目標のところでも、ここじゃなくても良かったじゃない？というのが、所々あって、その辺は、中期目標自体、我々に関わる場所ではないので、何か出てきたものについて評価するというのが、我々の立場なので、特に第二期を作られた時に、どういう経緯でこうなったのかということは、今や分かりませんが。

西原さん、どうですか。

(西原委員)

そうですね。

財務内容改善という目標からいけば、それは当然、金額という形になるんでしょうけども。大矢先生が言われるように、金額自体を目標として掲げていなかったことを結果として評価するというのは、ちょっとまずいと思いますので、当初、合っているかどうか、良かったかどうかは別として、件数を目標として掲げておりますので、これが大幅に達成できているといったところの評価ということでやるのではないだろうかと考えております。

(伊藤委員長)

じゃこうしましょうか。

今後の課題とする事項の中に「財務内容の改善という観点から、獲得金額の増加に向けての努力を期待したい」ぐらいでどうですか。

(倉成委員)

そうすれば、先生がおっしゃったように、件数を出したりしない方がいいと思っていて、でも評価上、これが3になってしまうとか、そっちが動くから何とかしようという、ちょっと本末転倒になる気がします。

(伊藤委員長)

本末転倒なんです。本末転倒なんですけども、元々、中期目標を十分には達成していないという項目自体が、例えば、職員宿舎の年間入居率とか、そういうところの評価が低いと言ったらいいんですかね。

(倉成委員)

そのところ、財務に関する項目が少なすぎるので、1つが、それが凄く重たくて、評価にすると3になる。そういうことがありますね。

(伊藤委員長)

そうですね。

(倉成委員)

ちょっとだから、できれば、確かに先ほどおっしゃったような、経費、特にフォーカスする項目を他に書いて、これについて出さない。クリアはしているんですけども、金額的な面が気になって、今、ちょっと資料を見ると、平成27年が1,300万で、700万、500万、700万で、令和元年度は200万台なので、件数がクリアしているからといって、目標を上回っているからといって。

確かに上回っているけど、じゃ実際、金額的な面で財務改善の面でどうなんだって、特に

評価する事項かって、ここにするのは、凄い抵抗がありますので。

(伊藤委員長)

そうですね。それは分かります。

だから、1つは、別に評価4を3にするとか、3が4になるとかということが一義的な目標、話ではないので、別にここで今議論して、別にここでは4ということをごちらとしては提案したけども、いろいろ皆さんで議論いただいた結果、3になっちゃいましたということでも別にいいと思うんです。

(倉成委員)

多分、それが一番自然かもしれない。

(伊藤委員長)

自然です。それは自然かもしれないですけども。

僕のイメージでは、例えば、中期目標を十分には達成していない項目自体が、例えば、職員宿舎の入居率だとか、そういうのが財務改善にそれこそどのくらいあったのかと言われれば、確かにこの表を見ても70、69と、ワッと下がってきて、あまり良いことはないんですけども。

(熊谷専門委員)

先生、先ほど、大学の方からもちょっとお伺いしたいのですが。小ぶりが多いと。それなりにその財源で間に合う研究だった？そこがちょっとお伺いしたいところなんですけど。

要は、200万ではありますが、件数自体が8件とか結構あるのですが。じゃ1研究は幾らぐらいで、十分それに賄うことができたのだということであればいいんですけど、足りないのか、足りなかったのか。

(伊藤委員長)

どうぞ。

(吉池副理事長)

発言させていただいてよろしいですか。

まず、外部から科研費以外のものについては、幾つか性格がありますが、1つは、大学の知的資源に対して、外部の、民間あるいは行政も少なくないのですが、そういうところからミッションベースで御依頼をいただく、いわゆる受託研究的なものがあります。そうしますと、何でもかんでも受けるわけではありませんが、我々の本来の研究教育と結びつき、更にその地域貢献的な意味合いが強いものをお受けして、一生懸命作業するということがござ

います。

そういう意味で、自ら研究費代わりに持ってくるものもありますが、どちらかというと要請ベースで動いているところがあるので、件数もかなり年度で変動します。要請ベースの案件について、例えば、青森県や他の自治体からいただく案件も、その都度テーマも変わり、また予算規模も変わるので、令和元年度は小さな規模のご依頼が多かったのですが、いただいた受託研究等はしっかりやっているといます。

もう1つ発言させていただくと、大矢委員がおっしゃったことは、非常に感じていまして、第三期中期計画では財務にかかわるところは全部組み直しました。私もこの担当になった時に、研究推進の飛び地のようなものが財務に一部あり、件数のBについては科研費なんです。研究推進においては、結果としての件数よりも一生懸命頑張って科研費を取ろうとしているプロセスを記載しています。科研費の採択に向けた取組については、研究推進のところでは、良い評価をいただきながら、財務にいて、件数でいえばBが付いています。科研費に関して、財務における件数のBを挽回するために、今いろいろと御議論いただいているんですが、そもそも研究推進として我々がきちんと資金を獲得しながら計画的にやっていくという部分と、結果としての財務の部分の整理は、第三期中期計画からはすっきりしています。そういう意味で、科研費の数が足りなくBとなったことにかかわる御議論をいただいているということで、大変心苦しく思います。

(伊藤委員長)

科研は23件でしたっけ。

(吉池副理事長)

23件の目標に対して21、2とか。

(伊藤委員長)

1とか20とか、そういうのが毎年、毎年きているのでBという評価ですけど。

(吉池副理事長)

一方、研究推進のところでは、プロセスについてしっかりやっているとということで御評価いただいているということになります。

(伊藤委員長)

これは、先ほど言いましたように、財務に関する目標だけではなくて、例えば地域貢献の中にも教育だったり、それこそおっしゃったような飛び地みたいなものがあったりして、結局、ある意味、目標に対しての。目標は目標としていいと思っているんですが、計画の立て方ですね。中期計画の立て方というのが、やはりちょっと緩かったというか、慣れていな

かったと言った方が正しいのかもしれないですね。一期は一期で何となくやって、二期、やろうと思ったけど、一期の流れからして、慣れてなかったりして、みたいなのがあって、今回、その二期の評価ということで、就職率なんかもそうなんでしょうけども。

そういう、ある意味、こういうことを言っちゃ、それこそ元も子もないんですけども。今はまだ、大人になっていないという、そういう意味では、大人の目線でどこまで見るかというような話になっちゃっているんですね。

だから、書き方、書き方なんです。だから、特に評価する事項として、7件を超えているからいいですねと。それは計画に件数が書いてあるんだから、これは十分ですと。

ただし、評価を十分に達成していながら科研の件数が達成していないんだと。だけど、科研、23件って書いてあるけど、だとしても20とか21はっていると。だから、その辺のところを、そこが、僕が言ったのは、忍びないと思ったのはそこなんですよ。だから、科研でも確かに達成していないと。これも、だから達成、何も書かないと、多分、そういうことになる「3」。別に「3」だっていいんだけど、でも財務内容、どうしますかね。

(大矢委員)

光熱費じゃ弱いですか。

(伊藤委員長)

特に評価する事項をこの外部の件数じゃなくて他のものに差し替えるという。もしくは付け加えるということですかね。

(大矢委員)

はい。

(伊藤委員長)

光熱水量は相当いいんですね。

(大矢委員)

かなり努力をなさってらっしゃるのではないかという数字が出てきていて、凄いなと思って。

(伊藤委員長)

つまり、簡単に言えば、財務内容、つまりそういう収支に関わるようなことを特に評価する事項に入れた方が見栄えがいいということですね。

(大矢委員)

ええ。

水道使用料、二桁の年もありましたし。

(伊藤委員長)

何でそんなに減るんだろう。

(大矢委員)

よく分からないと当時もおっしゃっていたような。

(伊藤委員長)

そうですね。

(大矢委員)

重油の使用料、これは暖かかったから、暖冬だったからと様々あるんでしょうけども。全体的に、毎年、これだけちゃんと減っていくというのは、これはこれで評価できると思うので。

(伊藤委員長)

確かにね。三角だらけになっている。

(大矢委員)

労務費だけはどうしようもないので、世間の流れで。

(伊藤委員長)

もう1回確認しますけども。評価自体は4ありきではないんです。4ありきではありません。4ありきではないけども、やはり、先ほど言いましたように、この6年間、いろんな社会情勢が変わってきている中で、大変、私、同じ大学人として、大変知恵を絞られて、何とかしていこうという、毎年、毎年、評価を続けてきて、ここ5年ぐらいになるのかな、続けてきて、やはりそのところは、科研が、例えば、先ほど言いましたように23件という目標のところを21件、20件というところで、確かに「B」という評価なんですけど。それをもって、全体評価ですね。財務内容の改善に関する全体評価を下げるというのは、若干忍びないなという気がしています。私としては、これ、個人的な感情です、これは。

なので、財務内容の改善に関しても、全体としては、まるっとみて達成しているということにしてもいいんじゃないかと思っています。

その際、やはり、何もしなになかなか「4」にはしにくい。何かやはり1つ拾えるものが欲しいということですね。拾えるものが欲しい。

(倉成委員)

管理経費のところ、この中で見れば。ちゃんと計画どおりに管理経費の削減が進められたとか。そんな感じじゃないですかね。

(伊藤委員長)

事務局、いかがですか。管理経費の削減に関しては、県としても評価できる内容なんではないか。

(事務局)

内容については、確かに、いわゆる目標に達するだけの削減率といいますか、そういうふうな状況になっているので、評価には大丈夫かとは思っています。

(伊藤委員長)

例えば、保健大学さんに、もう一度ヒアリングのようになってしまって申し訳ないんですけど。

例えば、光熱水量の抑制などについて、やはり、ある意味、ここまでやるのかと思うようなことも含めてやってきたという経緯はありますか。

(保健大学・上泉理事長)

勿論、光熱水費の抑制、節約については、エレベーターも半分を稼働させないとか。本当、細々したところから努力してやってきておりました、経費の抑制については、かなり努力してやってきて、これ以上、難しいというところまで節約しながらやってきてはおります。

それ以外の収入面のところで、研究費の収入を財務のところで見るということ、そのものが、やはり少し違和感があったなとは思っております。

ただ、研究費っていうのは、その研究の内容、規模に見合った研究費がくるわけですので、それがいずれは出ていくものであって、収入というふうに考えるのも、やはり少し違和感があります。

ですので、研究費の金額で見るというのも、少し馴染まないような気もいたしますが、収入として得られるものとしては、事務費ですね。

(伊藤委員長)

科研経費ですね。

(保健大学・上泉理事長)

はい。科研に伴う事務費というのが、多少の収入に、多少じゃない、かなりの大学にとつ

では、大きな収入になっているというところはあると思います。

今回も、この研究による収入というものを財務のところに入れておりますので、こういう評価は、しなければいけないんだと思いますが。全般的に見ると、科研費の補助金の部分以外は「A」ですので、私共としては、かなり努力して目標以上のところを頑張っ、中期目標を十分に達成してきたとは思っております。

そのように評価していただけると大変嬉しいなとは思っております。

(伊藤委員長)

光熱水量を含め、そういう経常経費みたいなやつですかね。特に光熱水量の抑制というのは、財務内容に大きく改善しているということはあるですか。

例えば、全体の財務の中で、本当に微々たるものだったら、努力の甲斐もなくて、聞き逃してもいいのかもしれないけども。この手のことが日常的にきちんと行われているっていうんですかね。見直してみたいなことが行われているということは、財務内容の改善によってインパクトがあることなのかどうかという面ではどうですか。

(保健大学・上泉理事長)

光熱水費？

(伊藤委員長)

例えば、光熱水費はいかがですか。

(保健大学・上泉理事長)

これは、やはりその年、その年の単価によって、かなり影響を受けております。特に、重油等は、変動が激しくて、なかなか計画どおりにはいかない。その中でも、節約して減らしてきているというところではあります。

(保健大学・三浦理事)

全体としてなんですけども、今、学長が申し上げましたように、重油とか、そういうものにつままして、やっぱり毎年の変動があるということ、毎年の気候によって、やはり寒い、暑いによって、いろんな影響はあるものです。

しかしながら、これだけ減らして頑張ってきているということは、職員のコスト意識の向上、これについては、非常に大きい影響があると思っております。学内の照明等も、不要なところはいつも消しておりますし、トイレ等も入るたびに点けたりとか、そういうところも意識の徹底はできていると思っております。

ですので、金額的な部分では、毎年差はあると思っておりますが、コスト意識を持って事務に取り組んでいくということでは、このようなことが1つの目標といたしますか、取組の目印にな

っていくというふうに考えております。

(玉川経営企画室長)

電気料だけで毎月200万以上、出ております。これが若干、何%でも、数%でも削減されれば財務に影響は確実にあります。

それから、当初、計画を定めた段階での電気を使用する設備といいますのは、それから比べて実験器具とか、自動ドアとか、そういうものを新たに敷設しておりますので、恒常的に使う電気量というのは増えていくはずなんですけども、なおかつ現状に留まっておりますので、これは、気候変動もありますけども、努力の部分も関与しているのではないかというふうに考えています。

特に平成30年度に身障者用に学内の自動ドアを増やしたんですけど、あれは電気を食いますので、あの部分がそんなに反映されていないということは、かなりの努力の結果かなとは思っています。

(伊藤委員長)

最近、暑くなるとエアコンの台数が増えたり、使う時間も増えたりしている中で、やはりそれほど使用量がドカンとっていないというのは、皆さん、気を遣ってらっしゃるんだろうなど。

分かりました。

特に評価する事項というのを書かないというのがまず1つ。わざわざ書かないけども、今、伺ったような話を総合的に勘案して4だというやり方は、4というか、3、だけれども3だというのが1つあります。

それから、やっぱりいろいろ話を伺って、4でいきましょうと。その時に特に評価する事項を付けるか付けないかというのがありますね。

僕はやっぱり、僕の意識としては、「B」という項目があったということで、4にするためには、特に評価する事項というのは、何かしら1つは欲しい。それは、やはり説明責任として欲しいと思っています。それは、僕らが説明するというよりは、やはり、例えば、知事さんをはじめ、これに関わっている、例えば、中期目標とか中期計画を作られた方、それから、それを認可された方たちにも、やはり保健大学がそのところをしっかりとやったんだということは、やはり言った方がいいのかなと。

いずれにしろ、いろいろ全体として、やっぱり目標、計画のたて方というのが、少し何だろうね、見通しがよくなかったって。それはいいよ、おいといても。

先ほど、ヒアリングのようになっちゃって申し訳なかったんですけど、皆さんのお話を伺った上で、特に評価する事項は、やっぱり僕は1点入れたいと思っています。

それをこの外部資金の件数ではなくて、今の、例えば、光熱水量の抑制をはじめとする職員のコスト意識の向上が大変高まっているとか、高まったとか。そういうような、例えば、

中期目標とか中期計画の言葉を使って、これだと、参考資料の3でいうと57ページですね。

57ページの中期計画の内容のところの、例えば、職員のコスト意識の向上を図るみたいな言葉もあったり、目標ですね、元々運営経費の抑制に努めるとか。何かそういう言葉を拾いながら、例えば、光熱水量の抑制などに代表されるようなとか。はじめとしてとか。何かそんなような感じで書くのはどうですかね。

(倉成委員)

いいと思います。

金額で見ると物価高があるので、金額はちょっと、上になってしまうんですけど。これを見れば使用量が全部目標値をほぼ下回っているので、クリアしたという、そういうことではないんじゃないでしょうか。

(伊藤委員長)

事務局、いかがですか。

(事務局)

よろしいです。それで検討させてください。

(伊藤委員長)

じゃ、この先は、この資料2について、今のところは、一旦保留にさせていただいて先に進めますけど。その保留にした(5)のところの特に評価する事項のところをコストの部分、コストのところですね。職員のコスト意識の向上とか、事務事業の合理化とか、何かそういうような目標とか計画の言葉を使いながら、このところが十分に向上しているとか。向上してきたとか。1つの例として、こういう光熱水量等々ですね。

どうですか。

(事務局)

元年度の単年度評価の際にも財務の調査の中で特に評価というところで運営経費、光熱水費の抑制についても「特に評価する」となっておりますので、これを参考にしたいなどと考えています。

(伊藤委員長)

この時に評価すると。先ほどの8ページですね。

(事務局)

そうです。

(伊藤委員長)

このくらいの書き方でどうですか。

サクッと、この元年度の8ページの特に評価する事項の表現、そのまま使いましょう。

やっぱり単年度、単年度で見ていくと、6年間まとめて見て書くのと、やっぱりなかなか若干、言い訳的には難しいところがあって

(大矢委員)

「継続的に」という言葉を入れるかな、毎年、毎年、ちゃんとクリアしていっているということも。

(伊藤委員長)

継続的をどこに入れますか？職員のコスト意識の向上の前に入れますか？それとも、一番先頭に入れますか？

(大矢委員)

目標を継続的に達成するなど、ですかね。

(伊藤委員長)

ちょっと、修飾語として、毎年きちんとやって、つまり6年間、6年間継続的にそれが進んでいるという表現をちょっとどこかに入れてもらえますか。

皆さん、どうですか、そういうような書きぶりでもよろしいですか。

最終的には、先ほど令和元年度の8ページか、表現に加えて、6年間、それが継続されている、してきたというようなことを少し付け加えさせていただいて、今の8ページですね。特に評価する事項のところを差し替えるという形にしたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいですか。

その点については、委員長に一任させていただいて構いませんか。よろしいですか。

ありがとうございます。バタバタと申し訳ありません。

では、先に進みます。

9ページですね、(6)になります。

教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画。

これは4「中期目標を達成している」としました。

これは、中期計画記載4項目のすべてが「中期目標を十分に達成している」と認められたこと等を総合的に勘案し、「4 中期目標を達成している」とした。

よろしいでしょうか。

では7です。

その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画で、4「中期目標を達成している」と。

中期計画の記載4項目のすべてが「中期目標を十分に達成している」と認められたこと等を総合的に勘案し、「中期目標を達成している」とした。

よろしいでしょうか。

では、前に戻っていただきまして、3ページですね。

1番、全体評価

(1) 総評になります。

青森県立保健大学は、本県の保健、医療及び福祉に係る諸課題の解決に向けて取り組むことを理念として、人間性豊かでグローバルな視点を持ち、地域特性に対応できる能力を兼ね備えた保健、医療及び福祉の中核的役割を果たすことができる人材を育成すること、並びに保健、医療及び福祉の教育研究拠点として培った人的資源や教育研究成果を広く地域社会に還元するとともに、産学官民の連携した取組による地域貢献活動を展開し、県民の健康と生活の向上に寄与することを使命としている。

第二期中期目標期間においては、

1学部4学科の特性を活かした、多職種連携を見据えた健康科学部共通教育を展開している

学生の将来を見据えた教育プログラムを設定するなど、高い実践力を持つ人材の育成につながる取組をしている。

国家試験対策等により、各種国家試験の合格率は全国平均以上の高い水準を維持している。

就職ガイダンスの実施等により就職率についても98%以上の高い水準を維持していると認められる。

中期計画については、総じてほぼ計画どおりに実施していると判断され、「中期目標を達成している」と評価できる。

引き続き、保健医療福祉に携わる人材の養成に努めるとともに、高度な教育研究機関としての機能を一層高め、本県が抱える重要課題に密着した研究等に取り組み、県民や地域社会への貢献に努められることを期待する。

として、次のページに、評価としては、7項目を、今、御議論いただいたことを踏まえた上で、4としてあります。

(3) 組織、業務運営等に係る改善事項等

「特に改善勧告を要する事項はない」といたしました。

ということで、今の私に御一任いただいた内容も含めて、資料2について、更に何かございますでしょうか。

皆さんに、いろいろ事前に御相談するべきところもあったんですけども、なかなか時間的なこともあって、出来なかったことは大変申し訳なく思っております。どうですか、これ。

(大矢委員)

すみません、凄く些末な。

1 ページ目の、先ほど、5 段階評価のところ、「中期的計画の達成において」ではなく、「中期目標も」ということなので、ここが直るといふ。

(事務局)

修正いたします。

(大矢委員)

はい、分かりました。

すみません、ありがとうございます。

(伊藤委員長)

他、お気づきになられたところ、ございますでしょうか。

今後は、今、御指摘いただいたところを修正した上で、知事に御報告して、あと議会に御報告して、保健大学のホームページにある時期、掲載されるということになるのでしょうか。そういうふうな進め方。

資料1、資料2、通じてですが、何かございますでしょうか。

ちょっと不手際があって、大変委員の皆様には申し訳ないことをしたと思って反省しております。

保健大学の皆さんにも、この場でいろいろまたヒアリングに近いようなことをお伺いして、大変申し訳ありませんでした。

では、感想などを、また改めてですが、熊谷さん、いかがですか。

(熊谷専門委員)

今回、初めて担当させていただきました、今まで県立保健大学とはお付き合いはあったんですが、本当になさっていることを十分理解していないが多かったと思いました。ここまでやってらっしゃるんだと。やはり、一般県民にしてみれば、もっと伝えてもらえれば、今、どちらかという、弘大の方が見えるような状況になっていて、県立保健大も、やっていること、どんどんアピールしていけばよろしいと思いました。

本当に御苦勞様です。

(伊藤委員長)

田中さん。

(田中委員)

やっぱり教育と経営というんですか、なかなか難しいものもあると思うんですけども。

そういう意味でも、経営的な感覚というものを皆さん、自覚なさりながら、教育の現場を高めていくということが非常に難しいと。こういう結果が出せているということは、非常に喜ばしい、素晴らしいことだなと感じました。

(伊藤委員長)

大矢先生。

(大矢委員)

本当に計画を立てるって、凄く大変だなというのを改めて今日、感じさせていただきました。

全体としては、地域定着枠ですとか、あるいはUターンの促進ですとか、県内就職率、あるいは県内人材を供給するという面で、徐々に、徐々に努力を重ねておられて、いろんな工夫をされてきているというところで、やはり、前回、ちょっと就職率の面で評価が下がってしまったところが、また上がったというところがありますので、是非、このまま取組を続けていただいて、難しい労働市場ではありますが、更に素晴らしい人材が供給されていくことをお待ちしております。

(伊藤委員長)

倉成さん。

(倉成委員)

私も、今回、初めて評価委員会の委員にならせていただいて、本当に国家試験の合格率の高さであるとか、就職率も高いということで、非常に努力されているということが、凄い高く評価されていることだと思います。それを、しかも継続して行うということは、本当に大変なことなので、それをやってらっしゃるというのは、凄い、失礼ながら、ちょっと知らなかったもので、今回勉強させていただきました。

あと、県民目線でいえば、やっぱり先ほどから話が出ているような、県内就職率というところが、やっぱり県立大学なので、皆さん、県民の方は、それを期待しているという、県内で教育して育成した人たちをやっぱり県内で活躍してもらいたいというところがあると思いますので、その辺に対しては、確かにいろんな外部的な要因もあって、大学単体だけでは上手くはいかないのかもしれないですけども、その分は努力していただきたいということを期待しています。

あと、財務改善のことなんですけども、先ほど、理事長先生もそれを財務の改善、先ほどの、外部資金の獲得の件ですね。科研費も含めてですけども。そういったことを財務の改善を評価するのに入れるのは抵抗があるっておっしゃったんですけども。やっぱり外部というか、第三者の目から見れば、やっぱりほぼ運営交付金で運営されていて、自分の努力が出来るところっていうのは、授業料支援のところと、外部支援の獲得というところだと思うんですけども。

今、授業料収入のところは、100%、皆さん、入ってらっしゃるので、そこはもうフィックスされて、価格を上げるとか、そういったことがない限りは、もう決まってしまうということがありますよね。そうすると、あと、運営交付金なんですけども、やっぱり県の財政ということも、これからのことを考えれば、そんなに潤沢ではないということを考えれば、やっぱりそういう自己資金の獲得というところが、やっぱり重要になってくるんじゃないかなというところは思っています、それに関しても、本当にいろいろ努力しているということは、勿論分かりましたので、いろんな獲得件数であるとか、金額的な面も今後努力して頑張っていたきたいと思っています。

以上です。

(伊藤委員長)

西原さん、お願いします。

(西原委員)

私も、国家試験の合格率であるとか、就職率についても、高い数値を毎年維持されていらっしゃるということは、本当に凄いことだなと思います。

ただ、なかなか県民全体にまだそういったことが知れ渡っていない。その他、素晴らしい活動もやってらっしゃるということも含めて、知れ渡っていないというところもありますので、ホームページであるとか、マスメディア等を活用して、幅広い発信を引き続きやっていただければなと思います。

また、県内就職率ですね。なかなか、これを上げていくというのは難しいかと思いますけど。同窓会ネットワークを活用してUターンの促進ということでもあげておられますので、引き続きそういったところにも目を向けていただいて、地域に貢献していただくということで取り組んでいただければと思います。

(伊藤委員長)

ありがとうございました。

上泉理事長、何かありましたらいただければ。

(保健大学・上泉理事長)

評価をいただきまして、本当にありがとうございました。

毎年、毎回、本当に感じているところですけども、この評価をしていただくことによって、私共、様々なことを気が付かせていただいたり、また学ばせていただいております。

今回のこの評価につきましても、次の取組みへの糧として、評価を活かしていきたいと思っております。

具体的なところで申し上げますと、今回、第二期の中期目標期間中で、カリキュラムを大幅に改定いたしました。3つのポリシーに基づく、また、私共が目指している理念等に基づいたカリキュラムを作ってきたわけですが。このプロセスも、かなりしっかりやって参りましたし、そのプロセスにおいて、多くの教員たちがカリキュラム開発を学べるようなこともして参りました。

その点を評価していただいたこと、大変嬉しく思っております。

外部資金のことにつきましては、私、少し言葉足らずだったかと思っておりますが、外部資金については、財務という観点から、財務資金、外部資金のことをどう目標をたて、どう計画をしていくかということをもう一度改めて見ていきたいと思っております。

外部資金は、必要ないと言っている、申し上げているわけではありませんが、財務の観点から、このことをどういうふうに捉えていくかということは、また改めて考えていきたいと思っております。

評価をありがとうございました。

(伊藤委員長)

では、事務局。

(事務局)

ありがとうございます。

事務局より、評価書案の今後の取扱いについてお知らせいたします。

評価書の案につきましては、委員長と御相談の上、諸手続きなど、今後事務局での手続きを経まして、評価委員会から県及び大学に送付されるということで公開となります。

また、県のホームページでの評価書の掲載をもって公開となりますので、報道等も含めまして、十分ご留意いただければありがたいと思っております。

なお、県のホームページへの掲載は、9月の上旬を目途としております。

また、来月中旬開会予定の県議会定例会、こちらにも報告することとしております。

今年度の委員会は、本日をもって終了となりますけども、委員の皆様方におかれましては、来年度以降も引き続き御協力、よろしくお願ひしたいと思います。

本日は大変ありがとうございました。

(伊藤委員長)

どうもありがとうございました。
お疲れ様でした。